

超音波装置 消毒ガイド

「取扱説明書 (2B771-141JA*W) 」より、20.3.2 を抜粋。

20. 3. 2 装置の消毒

装置を消毒するときの方法と、注意事項について説明します。

プローブの消毒については、プローブに付属の取扱説明書を参照してください。

⚠危険 装置の消毒後は、室内を十分に換気してから装置の電源を入れてください。
装置の近くや内部に可燃性および爆発性の気体が残留した場合、火災や爆発を起こすおそれがあります。

⚠警告 (1) 装置を消毒する前に、装置の電源を OFF にし、必ず電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。
装置が故障していた場合、感電するおそれがあります。

(2) 装置や周辺機器に、水などの液体がかからないようにしてください。
また、使用する薬品を装置や周辺機器に噴霧しないでください。感電するおそれがあります。

⚠注意 (1) 感染防止のため、以下の内容をお守りください。

- ・滅菌済みの保護手袋を着用してください。
- ・保護手袋は、消毒のたびに交換してください。

(2) 指定した薬品・方法以外では消毒しないでください。
正しく消毒されないおそれや、装置の表面が劣化または変色するおそれがあります。

(3) 薬液による消毒を行った後は、装置の表面を十分に乾燥させてください。

(4) 消毒の効果につきましては保証できません。薬品メーカーにお問い合わせください。

(5) 薬品の有効性については、それぞれの薬品の説明書に記載されている基準（有効期限、使用回数、変色、有効性テストキットを使用した結果など）に基づいて判断してください。

注意 (1) 薬品による消毒を繰り返すと、徐々に装置の表面が変化していきます。

(2) 消毒により製品の機能に変化が表われた場合は、製品の使用を中止し、最寄りのサービスセンタに修理を依頼してください。

1 使用可能な薬品

以下の薬品を使用できます。詳しい取り扱いについては、薬品の説明書を参照してください。

《装置本体》

- ・ 第4アンモニウム化合物 (0.75%)
: Cleanisept[®] wipes
- ・ 第4アンモニウム化合物 (0.50%)
: SUPER SANI-CLOTH[®]
- ・ 第4アンモニウム化合物 (0.25%)
: SANI-CLOTH[®] PLUS
- ・ 次亜塩素酸ナトリウム (0.65%)
: Dispatch[®] Hospital Cleaner
または Clorox Healthcare[™] Bleach Germicidal Cleaner
- ・ 塩素系錠剤ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム (NaDCC)
: BIOSPOT[®] (5,000ppm)
- ・ イソプロピルアルコール 70 vol%
- ・ 消毒用エタノール (15°Cで 76.9 ~ 81.4 vol%)

《参考信号用ケーブル・ECG 四肢用電極》

- ・ 塩酸アルキルジアミノエチルグリシン (0.5%)
: テゴ-51[®] など
- ・ 塩化ベンザルコニウム (0.2 w/v%)
: オスバン液[®] など
- ・ 塩化ベンゼトニウム (0.2 w/v%)
: ハイアミン[®] など
- ・ グルコン酸クロールヘキシジン (0.5 w/v%)
: ヒビテン[®] など

《心音センサー・脈波センサー》

- ・ 消毒用エタノール (15°Cで 76.9 ~ 81.4 vol%)

注意 参考信号用ケーブルは次亜塩素酸による消毒をしないでください。

2 消毒可能範囲

装置全体を消毒できます。

ただし、以下の部分は消毒できません。必要に応じて、中性洗剤を使用して清掃してください。

- ・モニタの液晶面
- ・キャスト
- ・フットスイッチ
- ・周辺機器（プリンタなど）

周辺機器に付属の取扱説明書を参照してください。

- ・ケーブル類

3 消毒方法

消毒の専門知識を有する方の指示に従って、消毒作業を行ってください。

- (a) 装置の電源を OFF にして、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜きます。
- (b) 感染防止のため、滅菌済みの保護手袋を着用します。保護手袋は消毒のたびに交換してください。
- (c) 消毒の前に、清掃を実施しておいてください。
- (d) 柔らかい布に薬品を含ませ、軽く絞ってから製品の表面を拭いてください。このとき、製品内部に薬液が入らないように十分注意してください。
- (e) 薬品による消毒を行った後は、装置の表面を十分に自然乾燥させてください。乾燥させるために装置を加熱したりしないでください。
- (f) 消毒した部分に破損や変形がないことを確認します。
- (g) 消毒を行った後は、室内を十分に換気してから装置の電源を入れてください。

- | |
|---|
| <p>注意</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 参考信号用ケーブルおよび ECG 四肢用電極を水や薬品で濡れたままにしないようにしてください。ECG 波形が正しく表示されなくなります。 (2) 参考信号用ケーブルのコネクタ部を水や薬品に浸さないでください。コネクタ内部に水や薬品が入ると、故障の原因となります。コネクタ部は乾いた布で拭くだけにしてください。 (3) 心音センサーおよび脈波センサーは防水仕様ではありません。水や薬品に浸さないでください。 (4) ECG 四肢用電極を煮沸消毒しないでください。破損の原因になります。 |
|---|

